

## インターバンクの声（2014年8月6日）

先週金曜日の米雇用統計発表後には、一旦ドルの上昇を思い止まざるを得なかったが、昨夜ニューヨーク市場で発表された7月の米ISM非製造業景況指数と6月の米製造業受注指数の強い結果を受けてのドル買い反応を見ると、やはり市場のモメンタムがドル買い方向に傾いているのが良くわかった。もっとも相場が生易しいものでないことを思い知らされるのは毎度のことで、昨夜もせっかくのドル買い後に、ロシアがウクライナ国境沿いに軍隊を集結されているとの情報とプーチン大統領の制裁報復指示が伝わると、ドルは対円を中心に上昇前の水準以下まで反落してしまった。米国と欧州連合（EU）対ロシアの制裁合戦が激化する様相だが、国連の安保理事会での協議で簡単に解決するような雰囲気でもない。持久戦となればロシアが厳しい状況に追い込まれるのは目に見えているが、プーチン大統領も簡単に妥協しないだろう。米国の経済指標と地政学的リスクに対する反応で相場が上下する状態がしばらく続くことになりそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。